

「市の財政が今どのような状態にあるのか」を市民の皆さんへお知らせ

財政事情を公表します!!

市では、年2回予算の執行状況を公表しています。

今回は、平成30年3月末現在の市財政事情をお知らせします。

※割合は小数点第2位を四捨五入

図 政策経営課(千代田庁舎)

平成29年度予算の執行状況

(繰越明許分2億2,543万4千円を含む)

一般会計予算 ▶ 178億500万6千円

一般会計とは、皆さんの暮らしに身近な仕事を行うための市の基本的な会計です。

特別会計予算 ▶ 113億9,205万4千円

特別会計とは、特定の事業を行う場合や特定の収入を特定の会計の支出に充てるために、一般会計とは区分して経理している会計です。

【歳入】

名 称		収入済額	収入割合
一 般 会 計		150億7,685万8千円	84.7%
特 別 会 計	国 民 健 康 保 健	48億1,294万7千円	85.6%
	後期高齢者医療	7億4,252万円	100.7%
	下 水 道 事 業	3億5,665万4千円	30.8%
	農業集落排水事業	7,997万1千円	18.0%
介 護 保 険		31億2,991万6千円	91.2%

【歳出】

名 称		支出済額	支出割合
一 般 会 計		135億4,075万7千円	76.1%
特 別 会 計	国 民 健 康 保 健	50億3,298万8千円	89.5%
	後期高齢者医療	7億1,468万3千円	96.9%
	下 水 道 事 業	9億2,726万2千円	80.1%
	農業集落排水事業	3億8,099万6千円	85.7%
	介 護 保 険	28億1,791万8千円	82.1%

市税の納入状況

収入済額 ▶ 54億4,781万8千円

区 分	収入済額	徴収率
市 民 税	25億3,325万6千円	91.1%
固定資産税	25億3,401万1千円	94.7%
その他市税	3億8,055万1千円	92.2%

地方債現在高の状況

地方債現在高 ▶ 320億5,489万8千円

地方債とは、特定の歳出に充てるために地方自治体が年度を越えて元利を償還する借入金です。

区 分	借入残高
一 般 会 計 債	195億2万6千円
下 水 道 特 別 会 計 債	64億3,523万8千円
農業集落排水特別会計債	24億9,035万2千円
水道事業特別会計債	36億2,928万2千円

基金現在高の状況

基金残高 ▶ 74億1,615万4千円

基金とは、特定の目的のために資金を積み立て、または定額の資金を運用するために設けられる資金または財産のことです。

区 分	基金残高
財政調整基金	18億2,480万4千円
減 債 基 金	27億6,013万9千円
そ の 他 基 金	28億3,121万1千円

一時借入金の状況

一時借入金現在高 ▶ 0円

一時借入金とは、一会計年度内において歳計現金が不足した場合に、その不足を補うために借り入れる借入金のことです。

霞ヶ浦の水上交通の歴史

今年は、第17回世界湖沼会議が開かれます。広報誌では、2回に分けて霞ヶ浦の水上交通の歴史を紹介します。今回は、縄文時代から戦国時代にかけての霞ヶ浦の水上交通の歴史です。市民の皆さんも会議を盛り上げるために、母なる湖としてすばらしい歴史を刻んできた霞ヶ浦と人間との関わりを改めて考えてみましょう!

図 歴史博物館

すばらしき繁栄の歴史をもつ霞ヶ浦地域

現代社会において水辺や山は、交通を妨げるものというイメージがありますが、歴史を紐解くと水辺や山は、港や峠を介して地域を繋げるものでした。特に水辺は、船の利用となるため、多くの人や物資を短時間で運ぶことを可能とし、鉄道やバス、トラックなどの陸上交通が定着する前は重要視されました。港がある地域は、人々が集住し、物が集積されてにぎわいあふれる空間となっていたのです。霞ヶ浦沿岸の港もまさに歴史の中では繁栄を極めていました。

港を支配する権力者の誕生

港は、船を利用してたくさんの人の往来や生産物の流通、物資の移入などを可能とするために、地域の発展に大きく影響を及ぼすものとなりました。古墳時代になると地方の権力者は、地域の発展に重要である港を整備すると共に掌握していきました。特に霞ヶ浦に注ぐ河川の河口付近に設けられた港は、それら河川によって内陸とつながり、交通の要衝として栄えていきました。霞ヶ浦沿岸には、数多くの古墳が築造されていますが、その多くが港の掌握によって権力を保持し得た豪族のものです。市内でも市川地区の熊野古墳の権力者は、恋瀬川を往来する船舶を監視できる場所を拠点としており、柏崎地区の富士見塚古墳の権力者は、菱木川の河口の柏崎の港を支配し、霞ヶ浦の高浜入りを航行する船舶を監視できる場所を拠点としました。霞ヶ浦沿岸の古墳時代の権力者は、当地域で生産された農産物、焼き物、農具などを水上交通を利用して流通させる一方で、ヤマト政権から配布される宝器や武器、武具、馬具などを移入させました。長距離間の人や物の移動によって霞ヶ浦の水上交通はさらに発展していくのでした。

中世に大活躍する霞ヶ浦の「海夫」

霞ヶ浦において漁業や輸送業に携わる専門の職人が誕生していったのが中世(鎌倉時代～戦国時代)の時期です。これらの人々は「海夫」とよばれ、「津」という港を拠点に活動していきました。海夫たちの活躍により、港が繁栄した様子が各種資料から判明しています。潮来市の長勝寺の梵鐘には「客船夜泊 常陸蘇城」と銘文がみられ、長勝寺(臨済宗)の門前に位置する潮来津が、「夜も多くの人々を乗せた船が往来していて、中国の長江の港町として繁栄する蘇州のようである」と記しています。また、霞ヶ浦の湾口部、太平洋に接す

霞ヶ浦の水上交通の始まり

地球上の歴史にあった最終氷期が終わりを告げ、約20000年前頃から地球は温暖化していきます。温暖化によって海辺が内陸まで広がり、縄文時代前期の約6500年前には、遠浅の内海となる霞ヶ浦の姿ができあがりました。平地から緩やかな傾斜をもって砂浜に至り、そして遠浅の水辺となる地形に、鹿島灘方面から寒流と暖流の両方に生息する魚介類が入り込むことで、穏やかな内海となる霞ヶ浦は縄文人の活動にとって格好の場となっていました。

縄文人は、丸木船を巧みに操り、内海の漁業と他地域との交易を活発にしていきました。霞ヶ浦沿岸の縄文遺跡から出土する他地域の貝や外洋性の魚骨、技術や文化などは、縄文人がいかに広範囲にわたって活動していたかを裏付ける貴重な資料といえます。市内の岩坪平貝塚で発見された南方系の貝であるタカラガイ、外洋性のマグロやヨシキリザメはそれらを物語っています。

霞ヶ浦における水上交通の基盤は、縄文人の生活から引き継がれる伝統的な文化といえます。

▼富士見塚古墳から出土した古代の船が描かれた埴輪



る位置に所在した島崎津(神栖山波埼)にほど近い位置にある島崎山宝蔵院(真言宗)の境内には、貴重な碇石があります。碇石は、船を停泊させるための木製の碇を沈めるための石のおもりで、主に中世の中国船や琉球船などに使用されました。碇石の存在は、霞ヶ浦地域にも中国からの物資を載せた船が往来していた事実を示すものとして貴重です。戸崎城出土の中国製陶磁器や八田館(牛渡)出土の中国銭などは、中国から当地へ運ばれたものと考えられます。